

2024年2月18日大齋節第1主日

創世記9章8-17節

ペテロの手紙一3章18-22節

マルコによる福音書1章9-13節

先週の水曜日から大齋節に入りました。庭の紅白の梅が満開です。教会歴も季節も変化がありました。

さて、本日の旧約日課は、創世記の有名なノアの箱舟の物語、その終わりの部分です。そもそも、主なる神様が大洪水を起こされた理由は、本日の聖書日課にはありませんが、「神は見て、良しとされた」世界が、主なる神様の思い通りにはならず、「主は、地上に人の悪がはびこり、その心に計ることが常に悪に傾くを見て、地上に人を造ったことを悔やみ、心を痛められた。」（創6:5-6）からでした。

洪水が終わった後、ノアは祭壇を築いて主なる神様に焼き尽くす捧げものをします。すると「主は宥めの香りを嗅ぎ、心の中で言われた。『人のゆえに地を呪うことはもう二度としない。人が心に計ることは、幼い時から悪からだ。この度起こしたような、命あるものをすべて打ち滅ぼすことはもう二度としない』」（創8:21）と、二度と大洪水で地を滅ぼすことはしないと宣言されるのです。そして、本日の聖書日課の少し前の部分では、「神はノアとその息子たちを祝福して言われた。「産めよ、増えよ、地に満ちよ。」」（創9:1）と祝福の言葉が続きます。まるで第二の天地創造のようです。それから本日の箇所へと続きます。すなわち、主なる神様は、ノアとその家族、そして地にいるすべての生き物に対して、「私はあなたがたと契約を立てる。すべての肉なるものが大洪水によって滅ぼされることはもはやない。洪水が地を滅ぼすことはもはやない」と契約を立てます。この契約は、「私は雲の中に私の虹を置いた。これが私と地との契約のしるしとなる」（創9:13）とあることから、「虹の契約」と呼ばれます。

わたしたち人間をはじめとした被造物は、「創世記」の1章から2章を通して、天地がすべて主なる神様の良しとされた世界であったことを知ります。しかし、ノアの洪水の物語を通して、現在の世界が、一度洪水によって滅ぼされ、新たにされた世界であることも知ります。そして、「（主なる神様の意志で）洪水が地を滅ぼすことはもはやない」という言葉を通して、主なる神様が大規模に地上の世界に介入されないということを知ります。つまり、この地上をどのように治めていくかは、人間をはじめとした被造物に託されたということです。ことに、この地上に悪が存在するのは、人間によるものなのです。もちろん、主なる神様は、そのあと地上に関して一切関わらなかったわけではありません。律法を通して、また預言者を通して、細かい注意や指示を出されているからです。

律法を通してこの世界から墮落や不正をなくすこと、あるいは預言者の言

葉に聞きしたがって、その歩みを修正していくこと、そのような信仰のあり方、生き方は今でも有効です。しかし、同時に困難でもあります。『聖書（旧約・続編）』の歴史は、その困難さを示し続けているとも言えます。そして、律法という言葉も、一般的な法律に置き換えると、現代人も法の源は異なりますが、今もその行為を行いつづけているとも言えます。

人間が理性を基にして法律を作成し、善と悪を定め、正義と秩序を追い求めること、そしてその法律をより緻密で高度なものにしようと試みること、そして、その法律を遵守しようとする、そのこと自体は決して悪いことではありません。先進国という表現は、いろいろな意味を持ちますが、法律という面から見ると、より優れた法律を持ち、それを多くの人々が誠実に守る国といえるかもしれません。しかし、この世界各地にある一般的な法律の場合、誠実に法律が造られた場合であっても、善と悪が文化によって異なります。それゆえ、その違いがむしろ高い次元へと導く場合もありますが、善と善との戦いが生まれてしまう場合もあります。それが今も繰り返されている戦争や紛争です。

そこで、文化の違いを超えた、人間が考える善悪を超えた、より崇高な法律が求められますが、そのような法律を誰が与えることができるのか。わたしたちが知っている答えは、主なる神様しかありません。それが『聖書』の律法なのですが、それでは振出しに戻ったようでもあります。しかし、わたしたちは、その律法を与えた主なる神様のご意思をもっとも明確に示してくださった方を信じています。それがわたしたちの信じるイエス・キリストなのです。

本日の福音書の箇所は、イエス様の洗礼と荒野の試みの箇所です。イエス様が福音の教えを宣べ伝え、十字架に向かう道を歩まれる準備の段階のお話です。本日の使徒書、ペテロの手紙一は、創世記からそのイエス様の出来事とのかかわりを、まとめてているといえます。すなわち、イエス様の洗礼と受難と復活、その出来事が示すノアの物語との関わり、そしてわたしたちがイエス様の名前で受けた洗礼との関係です。

主なる神様は、洪水を通して、この世界の墮落や不正、悪を滅ぼしましたが、実は、それらを残らず救うことも考えておられました。そのことが時空を超えて、イエス様の十字架と復活を通して、初めて明らかとなったのです。わたしたちは、そのイエス様の名による洗礼を受けています。洗礼という水を通じた出来事によって、そのイエス様の出来事にかかわるものとなったのです。主なる神様は、この地上を滅ぼすことはしないと誓われましたが、神に代わり人間が、様々な形でこの地上を滅ぼす可能性も、21世紀に入りなくなったわけでもありません。だからこそ、イエス様を真摯に信じ、礼拝することが大切なのです。わたしたちが教会でささげる礼拝は、まことの平和にもつながる歩みだからです。